

# 尼崎市提案型事業委託評価表

作成日 平成29年3月31日

事業名	21世紀の尼崎運河再生プロジェクト事業		
事業者の名称	一般社団法人リディラバ		
契約期間	平成28年 4月 1日 ~ 平成29年 3月31日 (1年目)		
業務の概要	21世紀の尼崎運河再生プロジェクト事業運営業務		
所管課・課長名	都市整備局 土木部	公園計画・21世紀の森担当	金子 智子
評価対象期間	平成28年 4月 1日 ~ 平成29年 2月28日		

評価項目	説明	評価	評価コメント
<b>1 事業の効果</b>		B	運河域で活動する他団体との関わりを積極的に持ち、市民ニーズを把握するように努めている。また、委託初年度であり、行政実施時と比べて実績が上がっているとは言えないが、チャンネルガイド養成講座を平日開催から土日開催に変えてニーズを探るなど、試行錯誤している。
市民サービス	市民サービス向上の取組がされているか		
市民ニーズ	市民ニーズが的確に把握されているか		
シチズンシップ等の向上	市民のシチズンシップや団体の公共的分野を担う力の向上につながっているか		
地域経済活性化	地域経済の活性化への配慮がされているか		
経費節減等	効率化、経費節減の取組がされているか		
<b>2 事業実施状況</b>		B	事業計画を策定し、概ね計画通りに事業を進めていたが、関係者等との連絡調整が不十分な点もあった。
計画性・透明性	計画的に事業が実施され透明性が確保されているか		
収支状況	収支状況が適切かつ良好であるか		
<b>3 事業執行体制</b>		B	受託者側の方針により経験の浅い担当者が当日の運営にあたることもあり、事故時等の体制も含め、合理的な人員配置であるとは言えない。
人員配置	合理的な配置であるか		
危機管理	事故時等の体制等が整備されているか		
情報管理	個人情報等の管理が適切であるか		

**主に取組んでいる事業内容・進捗状況**

尼崎臨海部の活性化を目指し、運河という資源を利用した「環境学習」や新たな発信の担い手として「チャンネルガイドの養成」などの事業を展開している。受託者は東京の団体で、今年度は関西での事業自体が初年度であったこともあり、まずは一通り事業を踏襲し現状の把握に努めたため、行政実施時と比べて実績が上がったとは言えないが、一年間の事業運営を通して、臨海部で活動する団体等との良好な関係を築き、事業の協力体制を固めることができた。また、次年度の事業実施にあたっての課題分析もできた。

**取組んでいる事業内容等の評価**

チャンネルガイド養成講座については、これまで平日に実施していたことから参加者の年齢層に偏りがあるという課題があった。今年度は幅広い年齢層の参加を促すために土日にも講座を実施し、大学生等が参加した。また、チャンネルフェスティバルにて、近隣の大学から学生を集め運河に関するワークショップを実施したことについても、本事業へ若い層を取り込む取組として評価できる。

総合評価	評価の理由、今後の課題等
B	委託初年度であり、全体的に行政実施時と比べて実績が上がっているとは言えないが、一年間の事業運営を通して、臨海部で活動する団体等との良好な関係を築き、事業の協力体制を固め、次年度に向けての課題分析もできたため、今後は団体の強みを活かし、臨海部を活性化するための新たな仕掛け作りに期待する。

\* 評価は、A～Dの4段階評価とする。  
 \* 確認調査の結果をチェックリストに記入する。更に1～3の大項目ごとに評価を行った後、総合評価を行うこと。  
 \* (評価項目1) 行政実施時と比較して、A:非常に効果があった。 B:効果があった。 C:同等の実施水準であった。 D:実施水準が下がった。  
 \* (評価項目2,3) A:非常に良好であった。 B:良好であった。 C:やや改善の余地があった。 D:多くの改善すべき点が見受けられた。

# 尼崎市提案型事業委託評価表

	作成日	平成30年3月30日
事業名	21世紀の尼崎運河再生プロジェクト事業	
事業者の名称	一般社団法人リディアバ	
契約期間	平成29年 4月1日 ~ 平成30年 3月31日 (2年目)	
業務の概要	21世紀の尼崎運河再生プロジェクト事業運営業務	
所管課・課長名	都市整備局 土木部 公園計画・21世紀の森担当 金子 智子	
評価対象期間	平成29年 4月 1日 ~ 平成30年 2月 28日	

評価項目	説明	評価	評価コメント
<b>1 事業の効果</b>			
市民サービス	市民サービス向上の取組がされているか	<b>B</b>	市直営で事業を実施していた時と比べ、チャンネルガイド養成講座の参加者層の拡大、一般向けの環境体験学習の実施などにより、幅広い年齢層の市民に学ぶ機会を提供するとともに、まちづくりの担い手育成の世代の拡大に繋がった。
市民ニーズ	市民ニーズが的確に把握されているか		
シチズンシップ等の向上	市民のシチズンシップや団体の公共的分野を担う力の向上につながっているか		
地域経済活性化	地域経済の活性化への配慮がされているか		
経費節減等	効率化、経費節減の取組がされているか		
<b>2 事業実施状況</b>			
計画性・透明性	計画的に事業が実施され透明性が確保されているか	<b>B</b>	事業計画を策定し、概ね計画通りに事業を進めていた。
収支状況	収支状況が適切かつ良好であるか		
<b>3 事業執行体制</b>			
人員配置	合理的な配置であるか	<b>A</b>	当初の計画通り2人体制で本事業に取り組んでおり、更に大学生ボランティアを呼び込むなど、適正な人員配置であったと言える。
危機管理	事故時等の体制等が整備されているか		
情報管理	個人情報等の管理が適切であるか		

<b>主に取組んでいる事業内容・進捗状況</b>
<p>臨海地域の貴重な地域資源である運河、河川等を核とした魅力ある地域づくりを図るため、幅広い担い手育成施策を実施し、南部再生を広く市民に発信することで、臨海地域に訪れる人を増やし、地域の活性化を目指すことを目的としている。</p> <p>①尼崎運河を活用した環境体験学習の実施(H28年度:6回、H29年度:12回)</p> <p>②尼崎チャンネルガイドの養成(H28年度:8回、H29年度:7回)、尼崎チャンネルガイドの会の側面的支援(毎月の定例会、チャンネルウォークなどの支援)</p> <p>③情報の収集と発信(フェイスブックなどを活用した広報)</p>

<b>取組んでいる事業内容等の評価</b>
<p>尼崎臨海部の活性化を目指し、運河という資源を活用した「環境体験学習」や新たな発信の担い手として「チャンネルガイドの養成」などの事業を展開している。委託1年目は行政実施時と比べて実績が上がったとは言えなかったが、委託2年目である今年度は、環境オープンカレッジや尼崎チャンネルガイドの会と連携して一般向けの環境体験イベントを行ったり、環境体験学習のボランティアスタッフとして大学生を呼ぶなど、行政実施時と比べて、より広い層に向けた地域の魅力発信を実施した。</p>

総合評価	評価の理由、今後の課題等
<b>B</b>	委託1年目と比べ、委託2年目である今年度は新たな取組を開始し、運河域への来訪者層の幅を広げたが、チャンネルガイド養成講座の受講者数は行政実施時と比べて大きく伸びているとは言えない。引き続き、より多くの講座参加者を獲得し、幅広い層に向けての魅力発信や担い手育成施策を実施していくことを期待する。

\* 評価は、A～Dの4段階評価とする。

\* 確認調査の結果をチェックリストに記入する。更に1～3の大項目ごとに評価を行った後、総合評価を行うこと。

\* (評価項目1) 行政実施時と比較して、A:非常に効果があった。 B:効果があった。 C:同等の実施水準であった。 D:実施水準が下がった。

\* (評価項目2、3) A:非常に良好であった。 B:良好であった。 C:やや改善の余地があった。 D:多くの改善すべき点が見受けられた。

# 尼崎市提案型事業委託評価表

	作成日	平成31年3月27日
事業名	21世紀の尼崎運河再生プロジェクト事業	
事業者の名称	一般社団法人リディラバ	
契約期間	平成30年 4月1日 ~ 平成31年 3月31日 (3年目)	
業務の概要	21世紀の尼崎運河再生プロジェクト事業運営業務	
所管課・課長名	都市整備局 土木部 公園計画・21世紀の森担当 金子 智子	
評価対象期間	平成30年 4月 1日 ~ 平成31年 3月31日	

評価項目	説明	評価	評価コメント
<b>1 事業の効果</b>			
市民サービス	市民サービス向上の取組がされているか	<b>B</b>	行政実施時の運河域への来訪者は、小学校単位の受入を除きシニア層が中心であったが、SUP体験や子ども向けの環境体験イベントなどの企画を取り入れることで若年層の参加者が増加し、幅広い年齢層の市民に学ぶ機会を提供した。
市民ニーズ	市民ニーズが的確に把握されているか		
シチズンシップ等の向上	市民のシチズンシップや団体の公共的分野を担う力の向上につながっているか		
地域経済活性化	地域経済の活性化への配慮がされているか		
経費節減等	効率化、経費節減の取組がされているか		
<b>2 事業実施状況</b>			
計画性・透明性	計画的に事業が実施され透明性が確保されているか	<b>C</b>	事業計画を策定し、概ね計画通りに事業を進めていたが、提案内容の中には関係団体との調整がつかず、実施に至らなかった項目もあった。
収支状況	収支状況が適切かつ良好であるか		
<b>3 事業執行体制</b>			
人員配置	合理的な配置であるか	<b>A</b>	事業者の人員以外にも大学生ボランティアを呼び込むなど、適正な人員配置であったと言える。
危機管理	事故時等の体制等が整備されているか		
情報管理	個人情報等の管理が適切であるか		

主に取組んでいる事業内容・進捗状況
<p>臨海地域の貴重な地域資源である運河、河川等を核とした魅力ある地域づくりを図るため、幅広い担い手育成施策を実施し、南部再生を広く市民に発信することで、臨海地域に訪れる人を増やし、地域の活性化を目指すことを目的としている。</p> <p>①尼崎運河を活用した環境体験学習の実施(H28年度:6回、H29年度:12回、H30年度:9回)</p> <p>②尼崎チャンネルガイドの養成(H28年度:8回、H29年度:7回、H30年度:3回)、尼崎チャンネルガイドの会の側面的支援(毎月の定例会、チャンネルウォークなどの支援)</p> <p>③情報の収集と発信(フェイスブックなどを活用した広報)</p>

取組んでいる事業内容等の評価
<p>尼崎臨海部の活性化を目指し、運河という資源を活用した「環境体験学習」や「チャンネルガイドの養成」などの事業を展開している。</p> <p>委託初年度は行政実施時と比べて実績が上がったとは言えなかったが、委託3年目である今年度は、チャンネルガイド養成講座の中で新たにSUP体験を取り入れ、尼崎チャンネルガイドの会と連携して子ども向けの環境体験イベントを行い、ボランティアスタッフとして大学生を呼ぶなど、運河域の認知度が低い「若年層」に向けた取組を実施することで、行政実施時と比べてより広い世代に向けた地域の魅力発信を実施した。</p>

総合評価	評価の理由、今後の課題等
<b>B</b>	若年層が興味を持つような企画を取り入れ、運河域への来訪者層の幅を広げようとした点は評価できるが、チャンネルガイド養成講座の受講者数は行政実施時と比べて伸びておらず、「チャンネルガイドの養成」に繋がっているとは言いがたい。運河域の活性化を図るには、養成講座の内容を工夫すると同時に、広報面を強化することにより多くの講座参加者を獲得し、運河域の魅力発信に携わる人材を育成していく必要がある。

- \* 評価は、A～Dの4段階評価とする。
- \* 確認調査の結果をチェックリストに記入する。更に1～3の大項目ごとに評価を行った後、総合評価を行うこと。
- \* (評価項目1) 行政実施時と比較して、A:非常に効果があった。 B:効果があった。 C:同等の実施水準であった。 D:実施水準が下がった。
- \* (評価項目2、3) A:非常に良好であった。 B:良好であった。 C:やや改善の余地があった。 D:多くの改善すべき点が見受けられた。